

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年2月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200510
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホームふるさとの家「すずらん」
所在地	鹿児島県薩摩川内市勝目町5215-5 電話 0996-27-6060
自己評価作成日	令和3年1月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様の高齢化・介護度の上昇に伴い、生活面に影響を及ぼす問題をそれぞれ把握し、身体面・精神面の、細かい部分まで配慮しながら援助するよう努めている。

・ご家族が面会に来られた際には近況報告や相談を行い、日頃からコミュニケーションを図るようにしており、ご本人やご家族の望みを理解できるように努め、その望みに応えられるような働きかけを心がけ、関係づくりに努めている。

・地域との関わりを大切に、地域自治体活動への参加や、看介護を担う人材育成の一端をになうため、看護大学や介護専門課程の実習の受け入れを積極的に行っている。(今年度は、新型コロナウイルスのため受け入れが出来ませんでした)

また、医療連携体制の下で、利用者様の日々の健康管理(バイタルサインや食事・排泄チェック・睡眠状況など)について医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士といった それぞれに専門職に相談・協力をもらいながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、市郊外に位置している。周辺は住宅や商店、コンビニエンスストアなどがあり、法人の医療機関、小規模多機能ホーム、居宅介護支援事業所、高齢者住宅などがあり、災害時の法人間の協力体制や研修体系が構築されている。また、食事は関連施設の管理栄養士による管理の下、平成24年から法人全体が一元的に調理を業者に委託している。

食事については、職員は食事形態に配慮し誤嚥なく美味しく食事が摂れるよう工夫し提供している。行事時には、家族の希望があればともに食事を摂る機会を設けている。また、委託業者に行事食の献立を相談し、利用者の嗜好や希望に応じ食事を提供している。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、外食は控えているが以前は、ファミリーレストランなどで外食を楽しんでいた。家族からは、おやつなどが差し入れられている。

新型コロナウイルス感染症禍であるため、面会制限を実施しているが、家族はもとより、知人や友人など馴染みの方と繋がり関係継続ができるよう、ズームや携帯アプリを活用して、画像や音声にて本人とコミュニケーションが取れるよう取り組んでいる。ケアプランの担当者会議は、玄関にて開催し、実際に本人の状態を観察していただきながら和やかな雰囲気の中、本人がより良く暮らせるための課題やケアの方向性を検討し、本人らしい生活の実現について検討している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	『ゆっくり 楽しく 穏やかに』をユニット理念として掲げ、朝礼後の復唱も行っている。常に理念を意識しケアに努めている。	ホームやユニット毎の理念は、玄関や事務所他、共有スペースに掲示され職員の意識向上が図れるよう取り組んでいる。また、身分証に記載された理念を常に携帯し、申し送りやミーティング時に唱和してケアを振り返り理念を共有するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等で地域のサークル活動に慰問をお願いしたり、地域自治会の夏祭りや敬老会などの行事に参加していたが、コロナ流行のため春以降行えていない	自治会に加入し、地域行事（夏祭り、敬老会など）への誘いがあったり、保育園児との交流活動やボランティア、介護実習生などの受け入れを積極的に起こない、散歩を通じて地域住民との会話活動をおこなったり、果物などの差し入れなども多かったが現在は交流を自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議内にて、認知症ケアについての発信や認知症に対する質問には事例や経験を踏まえた上でお答えしてきましたが2020秋以降コロナ流行のため運営推進会が行えていません		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内にて、いただいたご意見、提案を事業所内で運営に反映させています。（声掛け、接遇）2020秋以降コロナ流行のため運営推進会が行えていませんスタッフの参加も難しくなってます。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため現在は、2ヶ月1回毎の自己評価を実施し、会議メンバーに郵送の上、それぞれの立場からの意見を聞き取り、運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事の担当者へ必要に応じて事業所の報告等行っているが、会議等はコロナ流行のため2020秋以降開催されず。	電話や面談にて担当者と情報交換をおこない、事業所の実情などを報告し必要に応じて指導や助言を頂戴するなどして業務やサービスの改善・向上につなげられるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の見える所に、身体拘束排除宣言を掲示。ミーティングや日々の業務の中で、お互い確認しながら身体拘束をしないケアを実践している。部門内研修を实地している	身体拘束等適正化委員会は、2ヶ月毎に開催され、研修は法人全体で実施されている。身体拘束排除宣言を掲げ、ミーティングなどで触れ常に意識してケアに努めるなど日々実践している。昼間は、施錠はせず自由に暮らせるよう配慮するとともに安全を意識し、職員同士チームケアにて一致協力して身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて勉強会を行い、相手が嫌がることは虐待につながるということを職員同士で気づき注意しあえる環境作りを目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、本制度を利用されている入居者はいない。研修会等の機会があれば積極的に参加し権利擁護については、様々な権利について学ぶ機会を設けていきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、困っている事や不安に感じている事を聞き、今後起こりうるリスクや重度化等の対応についてなど丁寧に説明し、しっかりと理解していただいた上で契約に同意をいただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様との日々の会話や対応の中で、どういう思いや望みを持たれているか、読み取ったり観察している。コロナの流行で面会を制限するなどしているため、電話や手紙などでのやり取りを反映できるようにしている	感染症予防のため玄関での面談や手紙、電話にて利用者の介護の状況や事業所の取り組みなどを説明した上で、家族の意見・要望などを聞き取るよう努めている。利用者には、コロナ禍であって面会制限のなかでもラインなどのツールを駆使し、画像や音声にて家族を認識できるよう創意工夫を凝らし希望などを聞き取るようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開催している。議事録や申し送りなどで報告している。管理者は携帯メールなど活用しながら、スタッフが自由に相談できる体制を取っている	管理者は、必要に応じて職員と面談をおこない、運営に関する意見や職員個人の悩みや相談事を聴取しアドバイスをしたり、カンファレンスなどで意見交換をして業務の見直しや改善につながるよう話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い取得後は資格手当として給与に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフのレベルに応じた研修に参加できるよう、業務調整など行い積極的に、派遣したいと考えているがコロナ流行中の為現在は行えていない</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ流行中のため、他事業所との交流研修は、現在行えていない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの利用について相談があったときは本人と話をし、思いや困っている事に耳を傾け安心して下さるような、関係づくりに努める</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居の際に、ご家族の思いや不安な事を聞かせて頂き、不安なく生活できるような支援をしながら安心して頂けるような関係づくりに努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントを行い、ご本人の「できること」と「支援の必要なこと」を見極めた上でご家族の要望も伺いながら、ご本人に必要な支援を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様の心身の状態を考慮しながら、できることは活動を担って頂き共に支え合うことで誰かのために生きること、役立つ喜びを感じてもらえるよう、日常的に心掛けている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が体調の良い時も外出をお願いしたり、一時帰宅などともに過ごす時間を持つ事とお勧めしているがコロナ流行に伴い現在は行えていない		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ流行中のため面会は家族のみと制限される中、電話で話されたりリモート面会など、いつでも出来るように努めています。	新型コロナウイルス感染拡大予防のため面会制限をおこなっているが、感染予防を徹底し、玄関での面会ができるよう配慮している。また、携帯のラインやリモートでの画像、音声面談を実施し、馴染みの人との関係性が希薄にならないよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が、良好な関係とつくれるよう、スタッフが調整役を担い支援している。トラブルも起こりうることで、早い介入と関係の調整を行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人とご家族の退居後の相談には、いつでも応じる体制をとっており、その後の交流も続いている。畑に招待して下さったり季節の頂いたり良好な関係の構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご本人やご家族から、聞き取るようにしている。意思表示の困難な方であっても、今までの生き方や思いでを鑑み、どのように希望されているのかを慮る努力をする。	入居前の利用者情報や日々の暮らしの中で本人との会話や活動を通じて思いに触れ思いを汲み取るよう心がけており、時には家族に情報を聞き取り本人の思いを共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族よりわかる範囲での過去からの生き方や、入所に至るまでの経緯や葛藤を伺い、ご本人を心から理解し、支援に反映できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が自分らしく暮らせるようご本人の意向、思い、ご家族の「こんな風に暮らしてもらいたい」というような要望を伺い、計画作成担当者が中心となり、支援の計画作成を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の実地状況、支援の効果などを評価するとともに、スタッフが日々記録するご利用者の思いや状態の変化、ご家族の意向など必要に応じて見直しを行っている。	ユニットミーティングなどで職員全員でモニタリングを踏まえた計画の話し合いを実施し、半年毎に計画の見直しをおこなっている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため、感染予防を徹底し会議は玄関内でおこない出された意見や提案などは、介護計画書に生かすよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については支援経過の残し、個人ごとにケース記録に詳しく記入している。月末には担当者による評価を行い、ご本人の状態の確認を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診の付添い、買い物支援などは、ご家族と相談しながら事業所が変わって行う事もある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしが継続できるよう、行政、自治会、民生委員、消防、包括などの多様な方に運営推進会議にご参加いただき、地域との協働の一環としている（コロナ流行のため地域との協働は行えてない）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、以前からのかかりつけ医を受診できるようご家族と協力し必要であれば通院介助等を行う、必要に応じて複数の医療機関との協力体制を、お願いしている。	本人、家族が希望するかかりつけ医を原則とし、外来受診支援や他科受診の対応も柔軟におこなっている。また、必要に応じて家族に協力をもらい24時間切れ目のない医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と連携し毎朝の体調報告、特異時の対応の指示など行っている。夜間緊急時には待機看護師により、応急処置が行える体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院による認知症の進行などのダメージを最小限にするため、入院先Drや担当ワーカーと話し合う機会を持ち事業所内で対応可能な状態へ回復したら訴急に退院できるよう体制をとり、働きかけている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、伺える範囲のご本人とのご家族の死生観を含めた終末期の過ごし方について聞き取り同意を頂いている。終末期の希望に関しては気持ちの揺れ、思いの変化も十分にあり、その時の意向に沿って支援ができるよう努めている	「重度化した場合等における対応の指針」があり、入居時からホームでの看取りを希望される方も多く、重度化した場合、早い段階から本人、家族、主治医、関係機関などと話し合い本人、家族の納得のいく最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、すぐに連帯看護師へ連絡し、指示を仰ぐようにしている。夜間緊急時の対応の仕方について、全職員が見る事が出来る様に事務所内の掲示している。外部の救急対応訓練には参加しているが、部門内での定期的な救命講習等は実施していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を実施する際には、事前に地域自治会や周辺のコンビニ等の事業者、近隣住民に案内を回覧し参加を呼び掛けている。通常は火災防火訓練が中心であるが、今後は様々な災害を想定した訓練を実施していきたいと、防災管理者と検討している。</p>	<p>避難訓練は、自治会に広報し隣接のコンビニエンスストアや家族の協力ももらい、年2回実施している。職員は、消防設備を定期的に点検したり防災報道などを参考にして意識向上に努めている。火災通報装置があり、食料品などの備蓄もある。また、こども110番に指定され交番署員が毎日1～2回巡回している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わり方については職員一人一人が入居者様の尊厳を大切にされた対応ができるよう、ミーティングや内部外部研修を通して考える機会を設けるようにしている	職員は、ミーティングで研修を実施し意見交換をおこない、排泄、入浴などの場面ではプライバシー保護に配慮したケアを実践し、排泄の声かけは声のトーンなどに気配りしケアしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定を要する場面において、複数の選択の掲示、それぞれを選択したりメリット、デメリットの説明を丁寧に行い、入居者様が自己決定できる支援、その自己決定がより良い決定になるような働きかけに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、入居者様の希望や思いに合わせて、スケジュール通りの生活を強要しないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の選択は出来る限り入居者様に決定して頂き、季節や体調に合うものの部分については、スタッフよりアドバイスをさせて頂く。散髪は来所して頂き対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平成24年度より、食事については業者からの提供となり（法人一括）日常的な調理は行っていない。季節に合わせた干し柿作りやお菓子作り、配膳下膳、テーブル拭きお膳拭きのお手伝いなど、出来ることを一緒にお願している	職員は、調理のキザミやミキサー食など食事形態に配慮しながら誤嚥性肺炎を予防し美味しく安心して食事が摂れ食事が楽しめるよう努めている。行事食や手作りのおやつ、お弁当など提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、定期検査や毎週の体重測定をチェックし、大まかな栄養状態を把握できるようにしている。連帯看護師や法人内に管理栄養士に相談し、専門的アドバイスをもらい対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操、毎食後の口腔ケアを、1人1人の出来る力に応じて支援している。歯科受診については、ご本人ご家族の意向を踏まえながら、通院や訪問歯科診療の対応をしている。年1回の訪問歯科診療を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、それぞれの排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を行っている。排泄は、自然な行為であることを理解しご本人が行きたいときに「行ける」ことを	居室にトイレが設置されており、排泄のリズムを把握し定時にトイレ誘導したり、本人に意思確認し排泄補助しているが、職員はプライバシー保護に配慮し排泄の自立が図れるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分摂取、体操や散歩など適度な運動も取り入れて、事前に排便を促すよう努めている。排便状況をチェックし、看護師と連携をとり、便秘にならないような対応を心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	それぞれの入浴介助の必要性、必要量を検討しながら入浴をお願いしている入浴の頻度はそれぞれで、ご本人の希望や習慣に合わせた支援を行っている。	利用者の希望や必要性に応じて入浴を勧めているが、週2回～3回程度個々に応じた入浴方法を検討し入浴支援をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を増やし生活リズムを整えて頂くために、希望や思いに沿った活動を提供できるように心掛けている。体調や希望を考慮しゆっくり休息できる支援に努める		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や容量が変更されたりご本人の状態に変化が見られる時はより、詳細な記録をとるようし看護師や協力医療機関との連携を図れるようにしている。薬の管理についても、誤飲等のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者様の趣味・嗜好・得意なことや好きなことが楽しめるような自由な環境作りと、多彩な楽しみの提供を行うなどの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>近隣のコンビニやスーパーへの買い物、美容院への外出などの支援をしている。自宅への帰宅やお墓参りなど、ご要望があれば協力できることをお手伝いしている。（コロナ流行に伴い現在外出は行っていない）</p>	<p>ホームは、近隣にコンビニエンスストアや商店や医療機関などがあり便利な場所に位置している。天候が良い日は、散歩をするなどして気分転換をしていたが、感染症予防のため現在は自粛している。これまでは、ドライブ、買い物、美容院、夏祭り、運動会の見学、初詣、季節の花見など利用者と話し合いながら体調を確認して外出していた。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在 金銭管理は事業者側が行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望のお宅へ電話することが、事業者への電話の取次ぎなど、ご希望時に対応している手紙や郵便物はご本人にお渡しし、必要があれば代読をして確認頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅に近い環境、家庭にいるような雰囲気を感じて頂けるよう、厨房の様子が見えるような間取りやリビング内にはソファや、家庭的な食器棚を配置したり、音楽や光、中庭の活用など居心地の良い空間作りを日頃から意識している。</p>	<p>玄関を開けると木のぬくもりを肌で感じる空気感が心地良く、廊下には天窓があって、自然の採光が望める。感染予防のため換気は小まめにおこない、空気清浄機、加湿器があり、清掃や消毒が行き届いた生活空間である。中庭の花壇には季節の花々が利用者の気持ちを和らげてくれている。リビングには畳部屋がありソファでのんびりとくつろぐ方などそれぞれ自由に過ごしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関や中庭、廊下のところどころに椅子を配置しお好きなところで、お1人で休める場所を作っている。時にはご利用者との語らいの場にもなっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅と変らない居心地の中だ過ごして頂く為に、入居の際に使い慣れた家具や食器、ご家族の写真など、ご自由に持参して頂き、居室内のを自宅に近い環境作りをお願いしている。</p>	<p>居室は、フローリング仕様で、車いす対応型トイレ付である。重度化よりエアマットレスを使用される方もあり、本人の身体機能に合ったベッドである。利用者が心地よく過ごせるよう環境作りに努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様の心身の状態に合わせて居室内の環境が適しているかを検討し必要に応じて家具の配置変えを行うことがある（ご本人、ご家族に用意頂いた上で）入居者様、スタッフの異動導線上の安全確保、手すりや車椅子など、必要な道具の配置など常に安全を意識した環境作りを行って</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない